

# 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター 2010年度の活動

## 1. シンポジウム

### 1) 第11回シンポジウム

日時：2010年6月26日（土） 13:00～17:30

場所：東洋大学白山校舎 6号館地下1階 6B13教室

テーマ：殺人事件のあとを生きて～死刑をめぐる5つのストーリー～米国・犯罪被害者遺族の体験に耳を傾ける

企画趣旨：

細井洋子（東洋大学社会学部）

司会・コーディネーター：

坂上香（津田塾大学／ドキュメンタリー映画監督）

第1部：映像〈MVFHRの活動について〉

パネル・ディスカッション1

第2部：パネル・ディスカッション2

第3部：スライドショー

質疑応答

パネリスト：

Renny Cushing

Jeanne Bishop

Robert Meeropol

Bud Welch

Robert Curley

協力：

津田塾大学ソーシャル・メディア・センター

## 2. 講演会

### 1) 日時：2010年6月12日（金）15:00～17:00

場所：東洋大学白山校舎 6号館2階 6210教室

講師：Roxane Cohen Silver（University of California, Irvine）

テーマ：「Coping with Traumatic Life Events: Ensuring Population Resilience」

司会：

安藤清志（東洋大学社会学部）

### 2) 日時：2010年7月16日（金）14:40～16:40

場所：東洋大学白山校舎 5号館2階 5201教室

講師：Michael W. Myers（オレゴン大学 Ph.D. 東京大学研究員）

テーマ：「Looking for overlap: Understanding self-other overlap and its relationship to perspective taking and helping」

司会：

安藤清志（東洋大学社会学部）

## 3. 共同セミナー

### 1) 第1回 東洋大学 HIRC21&翰林大学応用心理研究所共同セミナー

日時：2010年5月22日(土) 10:00～  
場所：東洋大学白山校舎 6号館 3階 6302教室・3号館 2階第2会議室  
テーマ：PART I：心理学と法  
PART II：惨事ストレスと社会

#### 4. 研究交流会

##### 島崎プロジェクト

- 1) 日時：2010年4月17日(土) 16:00～  
場所：東洋大学白山校舎会議室  
議題：2010度の研究計画と研究内容の詳細に関する打ち合わせ
- 2) 日時：2010年8月7日(土) 15:00～  
場所：東洋大学白山校舎会議室B  
議題：新聞の内容分析の進捗状況報告とコーディング項目の検討
- 3) 日時：2010年10月29日(金) 15:00～  
場所：東洋大学白山校舎会議室B  
議題：内容分析の進捗状況報告とコーディング課題の検討
- 4) 日時：2010年12月18日(土) 15:30～  
場所：東洋大学白山校舎島崎研究室  
議題：内容分析の進捗状況報告とコーディング課題の検討

#### 5. 学会活動

福岡欣治(川崎医療福祉大学)「対人相互作用と気分状態の関係：気分尺度の信頼性、妥当性の検討」 日本感情心理学会第18回大会 2010年5月29日～30日

福岡欣治(川崎医療福祉大学)「日常ストレス経験に伴う友人との相互作用と心理的適応—ソーシャル・サポートと否定的相互作用に関する予備的検討—」 日本健康心理学会第23回大会 2010年9月11日～12日

福岡欣治(川崎医療福祉大学)「日常ストレス経験に伴う友人との相互作用と心理的適応—ソーシャル・サポートと否定的相互作用に関する予備的検討(2)—」 日本社会心理学会第51回大会 2010年9月17日～18日

福岡欣治(川崎医療福祉大学)「ストレス体験に伴う自己概念の肯定的/否定的変化—精神的健康およびソーシャル・サポートとの関連—」 日本心理学会第74回大会 2010年9月20日～22日

福岡欣治(川崎医療福祉大学)「日常ストレス経験に伴う友人との相互作用と心理的適応—ソーシャル・サポートと否定的相互作用に関する予備的検討(3)—」 中国四国心理学会第66回大会 2010年11月13日～14日

Fukuoka, Y.(Kawasaki University of Medical Welfare), Matsui, Y.(University of Tsukuba), Ando, K.(Toyo University), Inoue, K. (Yokoham National University), Hatanaka, M.(Meijyo Unbiversity), Yuki, H.(Toyo University), & Itamura, H. (Kansai University) Critical incident stress among Japanese journalists(3): Differences in managers' and workers' perceptions on dealing with daily job stress 27th International Congress of Applied Psychology (Melbourne, Australia), July 11-16, 2010.

Hatanaka, M.(Meijyo University), Matsui, Y. (University of Tsukuba), Ando, K..(Toyo University), Inoue, K.(Yokoham National University), Fukuoka, Y. (Kawasaki University of Medical Welfare), Yuki, H.(Toyo University), & Itamura, H.(Kansai University) Critical incident stress among Japanese journalists(1): Job-related traumatic event and mental health. 27th International Congress of Applied Psychology (Melbourne, Australia), July 11-16, 2010.

今井芳昭（東洋大学） 「対人関係ごとに見た、好意度と依頼への応諾度との関連性」 日本グループ・ダイナミックス学会第 57 回大会 2010 年 8 月 28 日～29 日

今井芳昭（東洋大学） 「3段階の論拠の提示順序が説得メッセージへの応諾度に及ぼす影響」 日本社会心理学会第 51 回大会 2010 年 9 月 17 日～18 日

伊藤大輔（日本学術振興会 早稲田大学）・高橋哲（芦屋生活心理学研究所）・長江信和（福岡大学）・高岡昂太（日本学術振興会 東京大学）・松井豊（筑波大学） ワークショップ「トラウマと PTSD に対する理解と支援 -精神医療と精神療法のアクセシビリティの向上に向けた検討-」 日本心理学会第 74 回大会 2010 年 9 月 20 日～22 日

片平冽彦（新潟医療福祉大学大学院） 園田恭一先生追悼 特別シンポジウム 「保健医療社会学の発展のために 薬害・公害研究とのかかわりを中心に」 第 36 回日本保健医療社会学会 2010 年 5 月 6 日

片平冽彦（新潟医療福祉大学大学院）・内山由美子（東京大学大学院） 「薬害 C 型肝炎事件における薬害被害告知の大幅遅延／不告知の実態—2009 年度全国実態調査の結果から；今なお「不告知」の被害者への告知は急務！」 第 51 回日本社会医学会 2010 年 7 月 4 日

片平冽彦（健和会 臨床・社会薬学研究所/新潟医療福祉大学大学院）・日野紀子（健和会みさと健和病院） 「新型インフルエンザ流行期における タミフルの副作用報告」 日本社会薬学会第 29 年会 2010 年 9 月 5 日

片平冽彦（健和会 臨床・社会薬学研究所/新潟医療福祉大学大学院）・小池盛明（協立医師協同組合）・八田加奈子（東葛病院薬局）・中村喜一郎（協立医師協同組合）・宮地典子（株式会社エイトライフ） 「副作用報告における担当医と 企業の因果関係判定の相違度（3）リン酸オセルタミビル（タミフル）服用 155 例の場合」 日本社会薬学会第 29 年会 2010 年 9 月 5 日

片平冽彦（新潟医療福祉大学大学院） 「犯罪と社会福祉・社会保障との関係について（第 1 報）」 日本社会福祉学会 第 58 回秋季大会 2010 年 10 月 10 日

片平冽彦（新潟医療福祉大学大学院） 「被害者福祉学・予防福祉学の課題と展望—薬害被害の場合—」 第 10 回新潟医療福祉学会学術集会 2010 年 10 月 30 日

片平冽彦（日本科学者会議保健医療福祉問題研究委員会） 基調報告 「薬害根絶に向けて—日本の科学者の歩みと今後—」 日本科学者会議 第 18 回総合学術研究集会 2010 年 11 月 20 日

久保ゆかり（東洋大学） シンポジウム「情動制御の発達 —関係性、自己の視座から—」 話題提供「子どものいざこざにみる情動調整」 日本発達心理学会第 22 回大会 2011 年 3 月 27 日（予定）

増野智彦（日本医科大学）・重村朋子（日本医科大学）・横堀将司（日本医科大学）・荒木尚（日本医科大学）・布施明（日本医科大学）・吉野美緒（日本医科大学）・稲本絵里（白梅学園大学）・阿部美帆（筑波大学）・松井豊（筑波大学）・横田裕行（日本医科大学） 「病院前救急医療におけるメンタルケアの重要性—安心して活動できるシステム構築を目指して—」 第 13 回日本臨床救急医学会 2010 年 5 月 31 日～6 月 1 日

Matsui, Y. (University of Tsukuba), Yuki, H. (Toyo university), Fukuoka, Y. (Kawasaki University of Medical Welfare), Ando, K. (Toyo university), Inoue, K. (Yokoham National University), Hatanaka, M. (Meijyo University), & Itamura, H. (Kansai University) Critical incident stress among Japanese journalists(2): Recognition of organizational critical stress care system. 27th International Congress of Applied Psychology (Melbourne, Australia), July 11-16, 2010.

松井豊（筑波大学） 「日本における惨事ストレス研究と対策の動向」 韓国相談学会学術大会 2010 年 10 月 16 日

宮崎貴子（立教大学現代心理学部）・竹田葉留美（千葉大学大学院融合科学研究科）・小口孝司（立教大学現代心理学部） 「過去の出来事の想起と自己開示がストレス変化に及ぼす効果」 日本社会心理学会第51回大会 2010年9月17日～18日

落合萌子（筑波大学）・松井豊（筑波大学） 「違法・有害情報対策従事者の職務ストレス」 日本社会心理学会第51回大会 2010年9月17日～18日

清水 裕 「地震災害に対する防災意識と防災行動の年齢による差異—大学生とその親との間での比較—」 日本グループ・ダイナミクス学会第57回大会 2010年8月28日～29日

清水裕（昭和女子大学）・西道実（プール学院大学）・田中優（大妻女子大学）・本吉忠寛（名古屋大学）・水田恵三（尚絅学院大学）・松井豊（筑波大学）・堀洋元（日本大学）・福岡欣治（川崎医療福祉大学）・竹中一平（岡山短期大学） 避難所運営訓練システム（STEP）の効果測定—女子大学生を対象とした検討— 日本社会心理学会第51回大会 2010年9月17日～18日

高木修（関西大学）・田中優（大妻女子大学）・松浦均（三重大学）・太田仁（梅花女子大学）・小溥雅章（向社会研究所）・松井豊（筑波大学） 「日本社会における「助ける」・「助けられる」・「助け合う」ということの社会的意義は？」 指定討論 日本社会心理学会第51回大会 2010年9月17日～18日

竹田葉留美（千葉大学大学院融合科学研究科）・小口孝司（立教大学現代心理学部） 「過去の出来事の想起がメンタルヘルスに及ぼす影響」 日本心理学会第74回大会 2010年9月20日～22日

谷口尚子（東京工業大学） 「2009年総選挙及び政権交代の長期的背景」 日本選挙学会 2010年5月15日

Naoko Taniguchi (Tokyo Institute of Technology) & Daniela Giannetti (University of Bologna) The Changing Bases of Party Support in Italy and Japan: Similarities and Differences. 2010 Annual Meeting and Exhibition of the American Political Science Association, Sep 5, 2010.

内山由美子（東京大学大学院）・片平冽彦（新潟医療福祉大学大学院） 「薬害C型肝炎被害者のC型肝炎感染後のライフ」 第51回日本社会医学学会 2010年7月4日

## 6. 論文

安藤清志 (2010). 否定的事象の経験と愛他性 東洋大学社会学部紀要, 47, 35-44.

安藤清志・松井豊・福岡欣治 (2011). 航空機事故犠牲者遺族の心理—名古屋空港中華航空機墜落事故の事例から(1)— 東洋大学社会学部紀要, 48, 57-71.

Asai M., Fujimori, M., Akizuki, N., Inagaki, M., Matsui, Y. & Uchitomi, Y. (2010). Psychological states and coping strategies after bereavement among the spouses of cancer patients: a qualitative study. *Psycho-Oncology*, 19, 38-45.

福岡欣治 (2010). 他者依存性と家族および友人との関係におけるソーシャル・サポート—大学生を対象として— 川崎医療福祉学会誌, 20, 259-265.

福岡欣治・井上果子・松井豊・安藤清志・結城裕也・畑中美穂・板村英則 (2010). 新聞ジャーナリストにおける日常の職務ストレスとソーシャル・サポート—基礎的分析— 横浜国立大学教育相談・支援総合センター研究論集, 10, 99-118.

福岡欣治 (印刷中). 日常ストレス経験に伴う対人相互作用と気分状態の関係—気分尺度の予備的検討— 川崎医療福祉学会誌, 20.

Hatanaka, M., Matsui, Y., Ando, K., Inoue, K., Fukuoka, Y., Koshiro, E., & Itamura, H. (2010). Traumatic stress in Japanese broadcast journalists. *Journal of Traumatic Stress*, 23, 173-177.

- 畑中美穂・松井豊・結城裕也・福岡欽治・安藤清志・井上果子・板村秀典 (2010). ジャーナリストのための PTSD 予防チェックリスト作成の試み 筑波大学心理学研究, 39, 57-64.
- 細井洋子 (2010). 一般市民の「被害者観」・「加害者観」についての研究 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 7, 13-34.
- 福岡欣治・井上果子・松井豊・安藤清志・結城裕也・畑中美穂・板村英典 (2010). 新聞ジャーナリストにおける日常の職務ストレスとソーシャル・サポート—基礎的分析—横浜国立大学大学院教育学研究科教育相談・支援総合センター研究論集, 10, 99-118.
- 片平冽彦 (2010). 「疑わしきは措置を取る」ことを基本に—「薬害の歴史」からみた薬害防止のあり方. 月刊保団連, 1030, 38-45.
- 片平冽彦・泉祐子・坂田和江・山本由美子 (2010). 第 2 章 薬害肝炎拡大と被害の実態. 平成 21 年度 厚生労働科学研究補助金 (医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業) 薬害肝炎の検証及び再発防止に関する研究最終報告書, 8-271.
- 片平冽彦 (2010). 薬害・公害のない、平和で健康な福祉社会を築くために—被害者福祉学・予防福祉学の発展を祈念して— 東洋大学社会福祉研究, 5, 33-54.
- 片平冽彦・小池盛明・中村建・中村喜一郎・八田加奈子・宮地典子 (2010). 副作用報告における担当医と企業の因果関係判定の相違度 (1) ゲフィチニブ (イレッサ) の場合 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 7, 5-8.
- 片平冽彦・小池盛明・中村建・中村喜一郎・八田加奈子・宮地典子 (2010). 副作用報告における担当医と企業の因果関係判定の相違度 (2) リン酸オセルタミビル (タミフル) 服用 48 例の場合 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 7, 9-12.
- 北村英哉 (2010). 感情の社会心理学の視点から—久崎論文、石川論文、藤井論文へのコメント— 心理学評論, 53, 105-109.
- 小浜駿・道谷里英・岡田昌毅・松井豊・高塚雄介 (2010). 若年就業者の精神的健康の規定因に関する探索的検討 筑波大学心理学研究, 39, 25-34.
- 久保ゆかり (2010). 自己調整の発達と社会的な適応 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 7, 35-38.
- 小口孝司・竹田葉留美・原島雅之 (2010). 過去の出来事の想起が抑うつに及ぼす影響 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 7, 39-46.
- Takahashi, Naoya & Matsui, Yutaka (2010). The relation of the images of people engaged in public service and the attitudes towards politics and society in Japan. *Tsukuba Psychological Research*, 40, 21-26.
- 谷口尚子 (2010). PC 研究会報告：民主党連立政権における政策戦略 公共選択の研究, 54, 61-66.
- 谷口尚子 (2011). 2009 年政権交代の長期的・短期的背景 選挙研究, 26(2), 15-28
- 兪善英・松井豊・立脇洋介・高橋幸子 (2010). 「消防職員の惨事ストレス研修」のフォローアップ研究—効果の持続性及び実践現況の視点から— 筑波大学心理学研究, 39, 65-72.
- 結城裕也・畑中美穂・福岡欣治・井上果子・板村英典・松井豊・安藤清志 (2010). 新聞ジャーナリストにお

ける職務上の自己開示—職階からの検討— 東洋大学大学院社会学研究科紀要, 46, 51-56.

渡部麻美・松井豊・高塚雄介 (2010). ひきこもりおよびひきこもり親和性を規定する要因の検討 心理学研究, 81, 478-484.

## 7. 著書

福岡欣治 (2010). ソーシャルサポート 相川充・高井次郎(編) コミュニケーションと対人関係(日本社会心理学会 50 周年記念企画第2巻) 誠信書房 pp.190-200.

福岡欣治 (2010). ソーシャルサポートと人間関係 藤森立男・小嶋正敏(編) 人間関係の心理 誠信書房 pp.159-178.

今井芳昭 (2010). 影響力 —その効果と威力— 光文社新書

今井芳昭 (2010). 対人交渉と説得(第8章) 相川 充・高井次郎(編) コミュニケーションと対人関係 展望 現代の社会心理学2 誠信書房 pp.135-153.

今井芳昭 (2010). 説得コミュニケーション、説得技法(用語説明) 海保博之・松原 望(監修) 感情と思考の科学事典 朝倉書店 pp.224-225, pp.232-233.

片平冽彦 (2010). 「スモン[Subacute myelo-optico-neuropathy(SMON)]」茂木俊彦編集代行『特別支援教育大事典』旬報社 pp.521-522.

片平冽彦 (2010). 「薬害[drug-induced suffering]」茂木俊彦編集代行『特別支援教育大事典』旬報社 pp.867-868.

片平冽彦 (2010). 「クロロキン」環境総合年表編集委員会編『境総合年表—日本と世界—』すいれん舎 p350.

片平冽彦 (2010). 「筋短縮症」環境総合年表編集委員会編『境総合年表—日本と世界—』すいれん舎 p351.

片平冽彦 (2010). 「予防接種後肝炎(薬害 B 型肝炎)」環境総合年表編集委員会編『境総合年表—日本と世界—』すいれん舎 p352.

片平冽彦 (2010). 「MMR ワクチン」環境総合年表編集委員会編『境総合年表—日本と世界—』すいれん舎 p355.

片平冽彦 (2010). 「ソリブジン」環境総合年表編集委員会編『境総合年表—日本と世界—』すいれん舎 p356.

片平冽彦 (2010). 「フィブリノゲン製剤と第Ⅸ因子による薬害 C 型肝炎」環境総合年表編集委員会編『境総合年表—日本と世界—』すいれん舎 p357.

片平冽彦 (2010). 「薬害イレッサ」環境総合年表編集委員会編『境総合年表—日本と世界—』すいれん舎 p358.

片平冽彦 (2010). 「タミフル」環境総合年表編集委員会編『境総合年表—日本と世界—』すいれん舎 p359.

松井豊 (2010). 被災職員のこころのケア 奥寺敬・山崎達枝(監) 災害時のヘルスプロモーション2～被災に向けた施設内教育研究・訓練プログラム～ 荘道社 pp.281-295.

松井豊 (2010). 悲嘆 海保博之(編) 感情と思考の科学事典 朝倉書店 pp.276-277.

松井豊 (2010). インターネット上の違法・有害情報対策及びフィルタリングの動向と普及促進に関する調査研究 経済産業省・財団法人インターネット協会(編) 平成 21 年度我が国情報経済社会における基盤整備 報告書 pp.97-101.

松井豊 (2010). ひきこもりに関する実態調査 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)(編) 若者の意識に関する調査 報告書 概要版 pp5-23, p33-39.

松井豊(研究代表) (2010). ジャーナリストの惨事ストレスに対するケアシステムの構築 平成 19-21 年度科学研究費補助金基盤研究(B) 研究成果報告書

## 8. その他

今井芳昭 「環境配慮行動の規定因 —計画的行動理論からのアプローチ—」(研究報告) TIEPh セミナー 環境人間学 —環境問題への「人間学的」アプローチ— (於: 東洋大学、TIEPh: 東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ 2010年10月23日)

大島尚 「環境配慮の価値観と行動—社会心理学からのアプローチ—」(研究報告) TIEPh セミナー 環境人間学 —環境問題への「人間学的」アプローチ— (於: 東洋大学、TIEPh: 東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ 2010年10月23日)

北村英哉 公正研究会(コメンテーター) (於: 東洋大学 2010年9月9日)

※プロジェクトに参加するメンバーは以下の通りである。

### 〔研究員〕

安藤清志(東洋大学社会学部教授)〔統括責任者〕  
大島尚(東洋大学社会学部教授)  
島崎哲彦(東洋大学社会学部教授)  
黒澤香(東洋大学社会学部教授)  
北村英哉(東洋大学社会学部教授)  
今井芳昭(東洋大学社会学部教授)  
久保ゆかり(東洋大学社会学部教授)  
細井洋子(東洋大学社会学部教授)  
原山哲(東洋大学社会学部教授)  
加藤司(東洋大学社会学部准教授)  
関谷直也(東洋大学社会学部准教授)  
菅さやか(東洋大学社会学部助教)

### 〔客員研究員〕

松井豊(筑波大学教授)  
小口孝司(立教大学教授)  
片平洌彦(新潟医療福祉大学大学院教授)  
福岡欣治(川崎医療福祉大学准教授)  
清水裕(昭和女子大学准教授)  
谷口尚子(東京工業大学准教授)

### 〔研究支援者〕

市村美帆(東洋大学)

### 〔リサーチ・アシスタント〕

白井美穂(東洋大学大学院社会学研究科)  
田中智仁(東洋大学大学院社会学研究科)  
佐藤史緒(東洋大学大学院社会学研究科)